



急性緑内障発作を予防しよう！

急性緑内障発作とは？

緑内障は一般的には慢性疾患(徐々に視野障害、視力障害が進行する疾患)ですが、特殊な緑内障として急性閉塞隅角緑内障(急性緑内障発作)という疾患があります。これは、いままで目の異常を感じたことも、異常を言われたこともない方でも、ある日突然劇的な症状を伴い発生する可能性があります。

こんな症状がでたら要注意

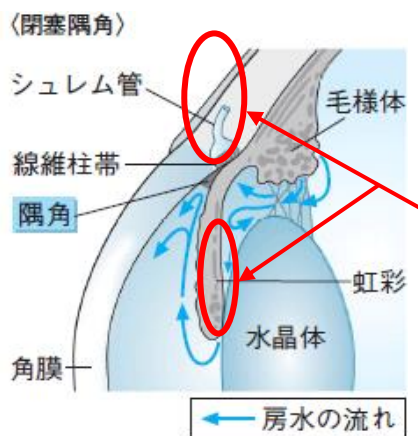


- ★強い充血
- ★視力低下
- ★眼痛
- ★頭痛
- ★吐き気 など



このような症状が発生し数日で失明してしまうこともある眼科救急疾患の代表的なものです。極めて強い頭痛や嘔吐の繰り返しがあるため、眼科ではなく脳外科や内科を受診することも多いため、眼科的治療が手遅れになることも多い疾患です。自分がこの疾病を将来起こしやすいかを確認して、必要であれば事前に予防治療を行うことが大切です。

急性緑内障発作がおこるのはなぜ？



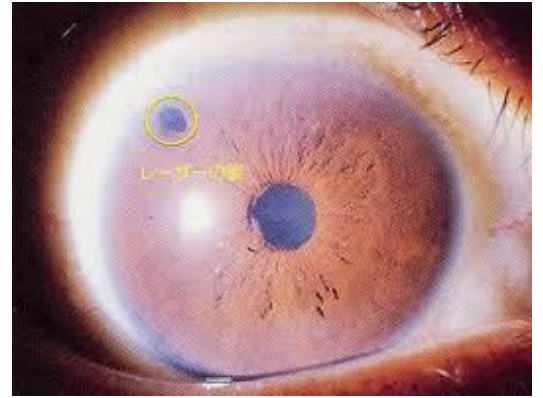
目の中には房水という液体が循環しており、その排出路は角膜と虹彩の間の隅角と呼ばれる部分にあります。もともと隅角が狭い方が、白内障などの年齢的な変化により隅角が狭くなり、ついには隅角が閉塞してしまうと、房水の排出路が完全に閉ざされてしまいます。そのため、突然眼圧(眼球の内圧)が大きく上昇し、急性緑内障発作が発症します。中年期以降で、遠視の強い方、体の小柄な方(≡眼球のサイズが小さい)はもともと隅角が狭い傾向にあり、特に注意が必要です。

治療方法は？

隅角が狭いという眼内の構造上の問題であるため、手術により眼内の構造を整理し、房水の流れをスムーズにする必要があります。通常の慢性緑内障は点眼治療が第1選択となりますが、急性緑内障発作では手術治療は第1選択となります。手術の種類は、レーザー手術や白内障手術、緑内障手術があります。

レーザー手術

レーザーを用いて虹彩に穴をあけて、房水のバイパス路を作ることで隅角を少し広げることがができます。外来で簡単にできますが、効果が弱い場合もあります。



白内障手術

白内障手術により水晶体を取り除く(人工水晶体という薄いレンズに交換する)ことで隅角を広げることがができます。レーザー治療よりも、持続性の高い治療です。



白内障手術 + 緑内障手術

白内障手術で隅角が広がっても、まだ隅角が強く癒着、閉塞しており房水を排出される機能が低下している場合があります。その場合は隅角の癒着をはずす等の緑内障手術を追加する必要があります。

緑内障と言われたら、かぜ薬はのんではダメって本当？

かぜ薬、睡眠剤、抗不安剤、整腸剤などの内服薬には自律神経に作用し、目の瞳孔を広げる作用をもつものがあります。このようなお薬には、『緑内障の患者さまは服用しないように』注意書きがされています。これは、瞳孔が広がることで、隅角がもともと狭い方であれば、ついには隅角が閉塞してしまうため、急性緑内障が誘発される危険性があるというものです。正確には、“隅角の狭い方”への注意書きであり“緑内障”だからといって全ての方に当てはまるとは限りません。

そのためにも、日ごろから眼科を受診し、きちんとご自身の目(隅角)の状況を知っておくことで、これらのお薬であっても安心して服用することができます。緑内障だからと言って内服薬を我慢せず、お気軽にご相談ください。

